

進化する個性派化学

昭和電工株式会社

2018年第1四半期 決算説明資料

2018年5月9日発表

取締役 執行役員 CFO
加藤 俊晴

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極等製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

連結対象会社(前期末対比)

- 連結子会社：62社
増減なし

- 持分法適用会社：11社
増減なし

主要諸元

(期中平均)

	2017年1－3月	2018年1－3月	増減
■ 為替レート			
(円/US\$)	113.6	108.3	5.3円高
(円/€)	121.1	133.2	12.1円安
■ 国産ナフサ (円/KL)	41,900	47,900	6,000
■ アルミ地金			
LME (US\$/T)	1,854	2,163	309
国内市況 (千円/T)	265	289	24

(国内市況価格は日本経済新聞掲載値)

※2017年12月期末レート113.0 円/US\$ 2018年3月期末レート106.2 円/US\$ ⇒6.8円高

連結業績の概要

(億円)

	2017年 1-3月	2018年 1-3月	増減
売上高	1,832	2,147	315
営業利益	197	344	147
営業外損益	△20	△16	4
金融収支	△3	△3	△0
持分法投資利益	16	6	△11
為替差損益	△30	△24	7
その他	△3	5	8
経常利益	177	328	151
特別利益	2	0	△2
特別損失	△16	△9	7
税金等調整前四半期純利益	163	319	156
法人税等	△13	△57	△44
四半期純利益	150	262	112
非支配株主に帰属する四半期純利益	△4	△14	△10
親会社株主に帰属する四半期純利益	146	248	102

上期予想	
期初予想 (2月14日公表)	今回予想 (5月9日公表)
4,170	4,520
410	680
△20	△35
390	645
△60	△60
230	430

特別損益の内訳

(億円)

	2017年1-3月	2018年1-3月	増減
■ 特別利益	2	0	△2
● 投資有価証券売却益	2	-	△2
■ 特別損失	△16	△9	7
● 固定資産除売却損	△6	△7	△1
● その他	△10	△2	8
■ 特別損益	△14	△9	6

連結売上高差異内訳

(億円)

	2017年 1-3月	2018年 1-3月	増減	項目	上期予想	
					期初予想 (2月14日公表)	今回予想 (5月9日公表)
石油化学	646	538	△108	オレフィン:減収(大型定修による数量減) 有機:増収(酢ビ・酢エチ:市況改善) サンアロマー:増収	1,030	1,110
化学品	333	360	27	基礎化学品:増収 (AN・クロロプレングム:市況上昇) 産業ガス:小幅増収 情報電子化学品:増収 (電子材料用高純度ガス:数量増) 機能性化学品:増収 (原料価格上昇に伴う価格上昇)	740	750
エレクトロニクス	297	277	△19	HD:減収(数量減) 化合物半導体、レアアース:増収(数量増) リチウムイオン電池材料:増収(数量増)	540	550
無機	131	514	383	セラミックス:減収(汎用アルミナ数量減) 電極:大幅増収(市況上昇、数量増)、 昭和電工カーボン・ホールディング連結 子会社化(2017年4Q)顕現	880	1,130
アルミニウム	236	248	13	圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔:数量増) 機能部材:増収(産業機器・自動車部材:数量増) アルミ缶:小幅減収(国内数量減)	530	560
その他	320	343	23	昭光通商:増収	670	690
調整額	△131	△134	△3		△220	△270
合計	1,832	2,147	315		4,170	4,520

連結営業利益差異内訳

(億円)

	2017年 1-3月	2018年 1-3月	増減	項目	上期予想	
					期初予想 (2月14日公表)	今回予想 (5月9日公表)
石油化学	106	33	△72	オレフィン:減益(大型定修による数量減) 有機:減益(原料価格上昇) サンアロマー:増益	40	50
化学品	31	36	5	基礎化学品:増益 (AN・クロロプレンゴム:市況上昇) 産業ガス:小幅減益(原燃料・物流費上昇) 情報電子化学品:増益(電子材料用高純度ガス: 数量増) 機能性化学品:減益(原料価格上昇)	70	80
エレクト ロニクス	60	29	△32	HD:減益(数量減) 化合物半導体、レアアース:増益(数量増) リチウムイオン電池材料:小幅増益	50	60
無機	△1	249	250	セラミックス:増益(電子材料向け数量増) 電極:大幅増益(市況上昇、数量増)、 昭和電工カーボン・ホールディング連結子会社化 (2017年4Q)顕現	270	505
アルミ ニウム	15	13	△2	圧延品:小幅増益(数量増) 機能部材:前年同期並み アルミ缶:減益(国内数量減、地金高)	25	25
その他	2	8	6	昭光通商:小幅増益	△5	10
調整額	△17	△25	△8		△40	△50
合計	197	344	147		410	680

連結貸借対照表

(億円)

資産	2017年 12月末	2018年 3月末	増減	負債・純資産	2017年 12月末	2018年 3月末	増減
現預金	772	827	55	営業債務	1,208	1,208	0
営業債権	1,760	1,628	△132	有利子負債	3,467	3,300	△168
たな卸資産	1,149	1,258	108	退職給付に係る負債	190	178	△12
その他	372	368	△3	その他	1,733	1,515	△217
流動資産計	4,053	4,082	29	負債計	6,597	6,200	△397
建物・構築物	855	843	△12	資本金	1,406	1,406	0
機械装置・運搬具	1,516	1,478	△38	資本剰余金	617	789	172
土地	2,451	2,449	△2	利益剰余金	961	1,138	176
その他有形固定資産	237	236	△1	自己株式	△105	△17	89
有形固定資産計	5,059	5,006	△53	株主資本計	2,879	3,316	437
無形固定資産	124	131	7	その他有価証券評価差額金	165	150	△15
投資その他の資産	1,011	960	△51	繰延ヘッジ損益	38	14	△24
(内、投資有価証券)	892	867	△25	土地再評価差額金	295	295	△0
				為替換算調整勘定	155	84	△70
				退職給付に係る調整累計額	△47	△43	4
				その他の包括利益累計額計	606	501	△105
				非支配株主持分	165	163	△3
固定資産計	6,194	6,097	△97	純資産計	3,650	3,979	329
資産合計	10,247	10,179	△68	負債・純資産合計	10,247	10,179	△68

総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

	2017年12月末	2018年3月末	増減
■ 総資産	10,247億円	10,179億円	△68億円
■ 有利子負債	3,467億円	3,300億円	△168億円
■ D/Eレシオ	0.95倍	0.83倍	0.12p改善
■ 自己資本比率	34.0%	37.5%	3.5p増

2018年通期業績予想(連結)

(億円)

	期初予想 (2月14日公表)	今回予想 (5月9日公表)	予想増減	上期	下期*
売上高	9,000	9,350	350	4,520	4,830
営業利益	1,100	1,370	270	680	690
営業外損益	△40	△55	△15	△35	△20
経常利益	1,060	1,315	255	645	670
特別利益	△120	△120	0	△60	△60
特別損失					
親会社株主に 帰属する当期純利益	650	850	200	430	420
1株当たり当期純利益	441円58銭	577円45銭	135円87銭		
1株当たり期末配当金	70円	70円	—		

* 2018年通期下期予想については期初予想を据え置いております。

セグメント別2018年通期売上高予想

(億円)

	期初予想 (2月14日公表)	今回予想 (5月9日公表)	予想増減	上期	下期*
石油化学	2,350	2,430	80	1,110	1,320
化学品	1,540	1,550	10	750	800
エレクトロニクス	1,160	1,170	10	550	620
無機	1,930	2,180	250	1,130	1,050
アルミニウム	1,100	1,130	30	560	570
その他	1,370	1,390	20	690	700
調整額	△450	△500	△50	△270	△230
合計	9,000	9,350	350	4,520	4,830

* 2018年通期下期予想については期初予想を据え置いております。

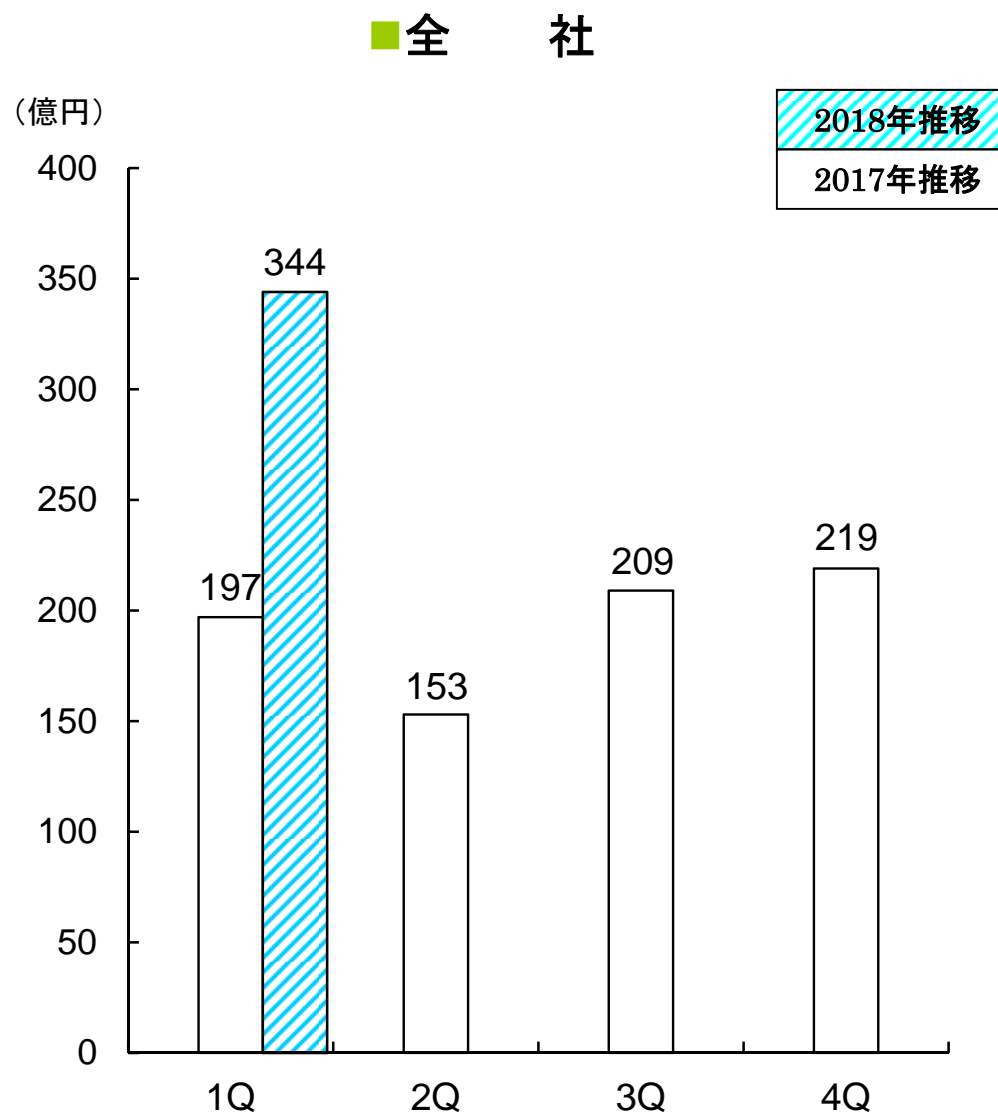
セグメント別2018年通期営業利益予想

(億円)

	期初予想 (2月14日公表)	今回予想 (5月9日公表)	予想増減	上期	下期*
石油化学	190	200	10	50	150
化学品	170	180	10	80	100
エレクトロニクス	160	170	10	60	110
無機	600	835	235	505	330
アルミニウム	60	60	0	25	35
その他	0	15	15	10	5
調整額	△80	△90	△10	△50	△40
合計	1,100	1,370	270	680	690

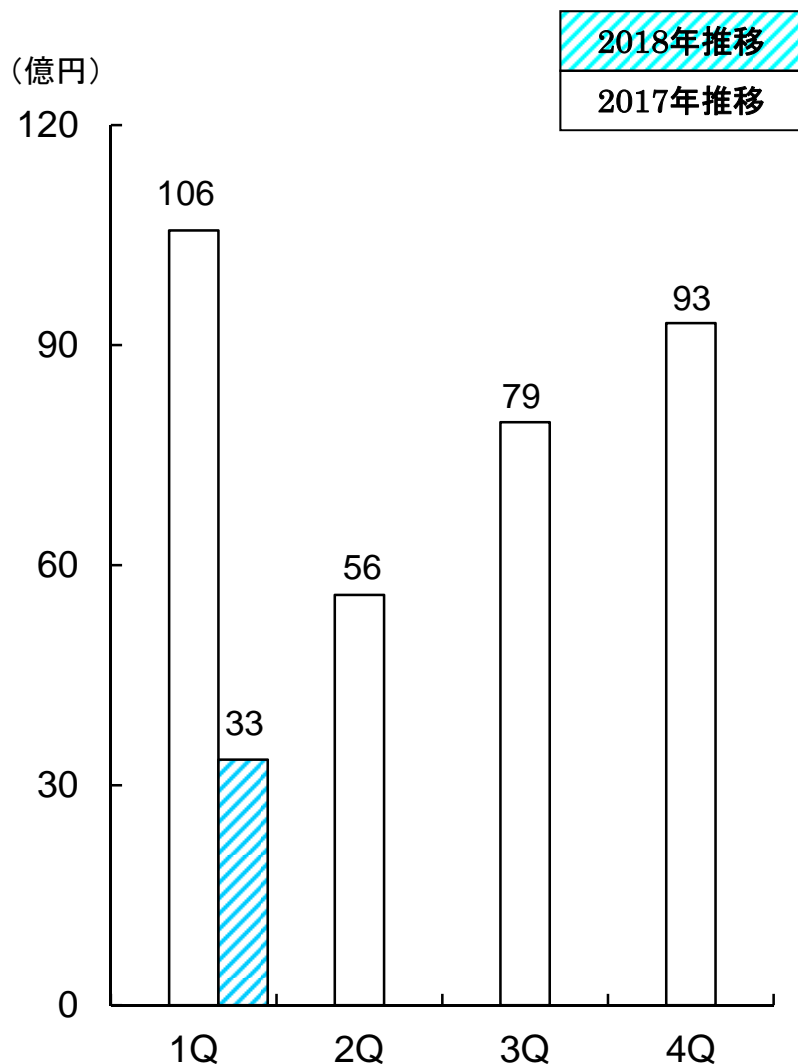
* 2018年通期下期予想については期初予想を据え置いております。

(ご参考) 四半期別連結営業利益推移

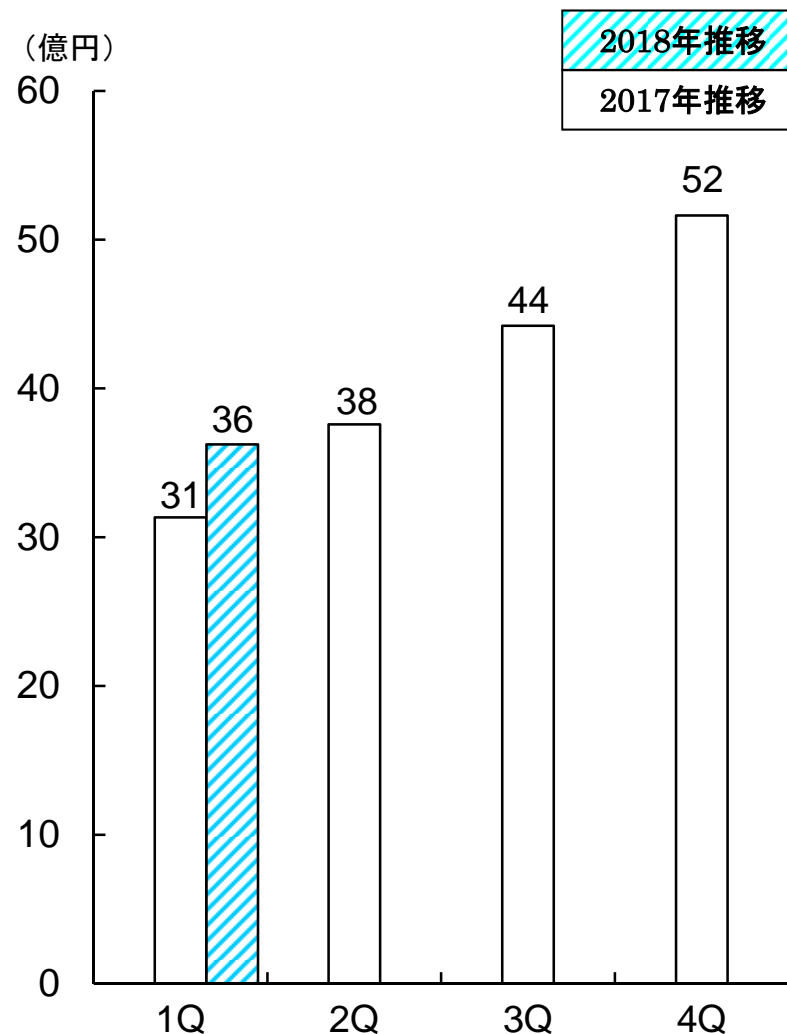


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■石油化学セグメント



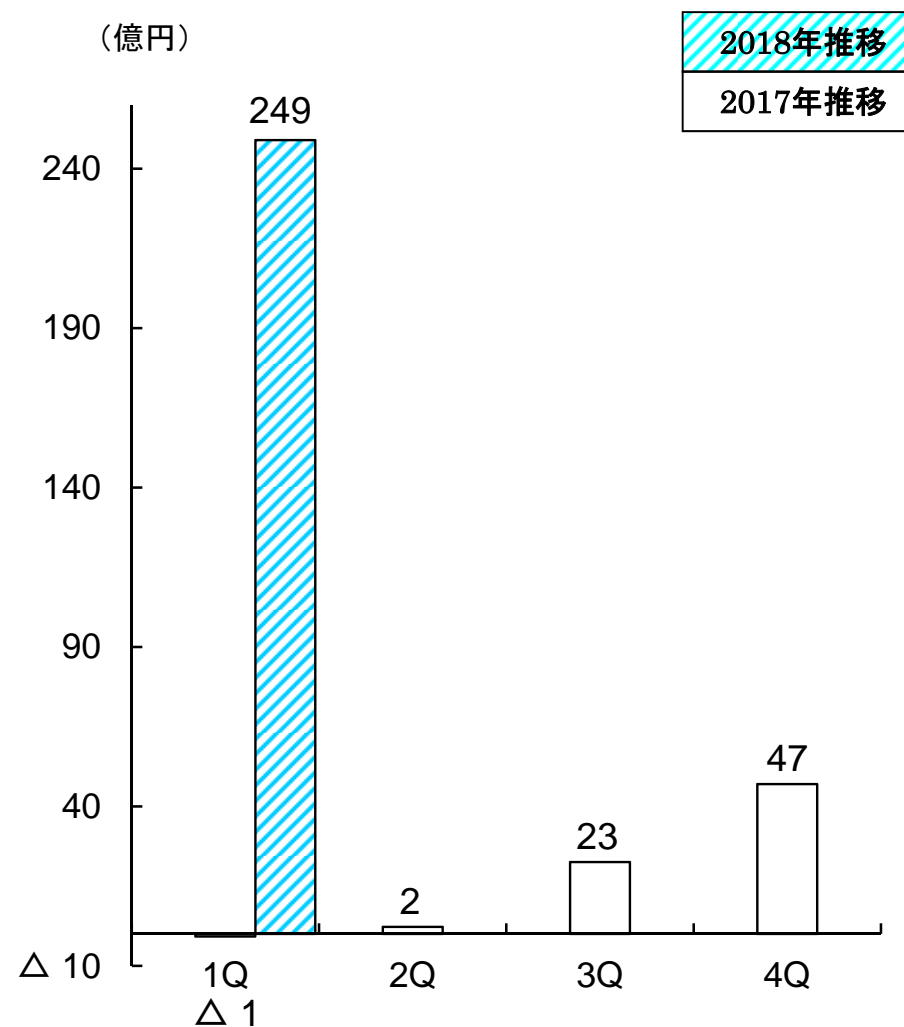
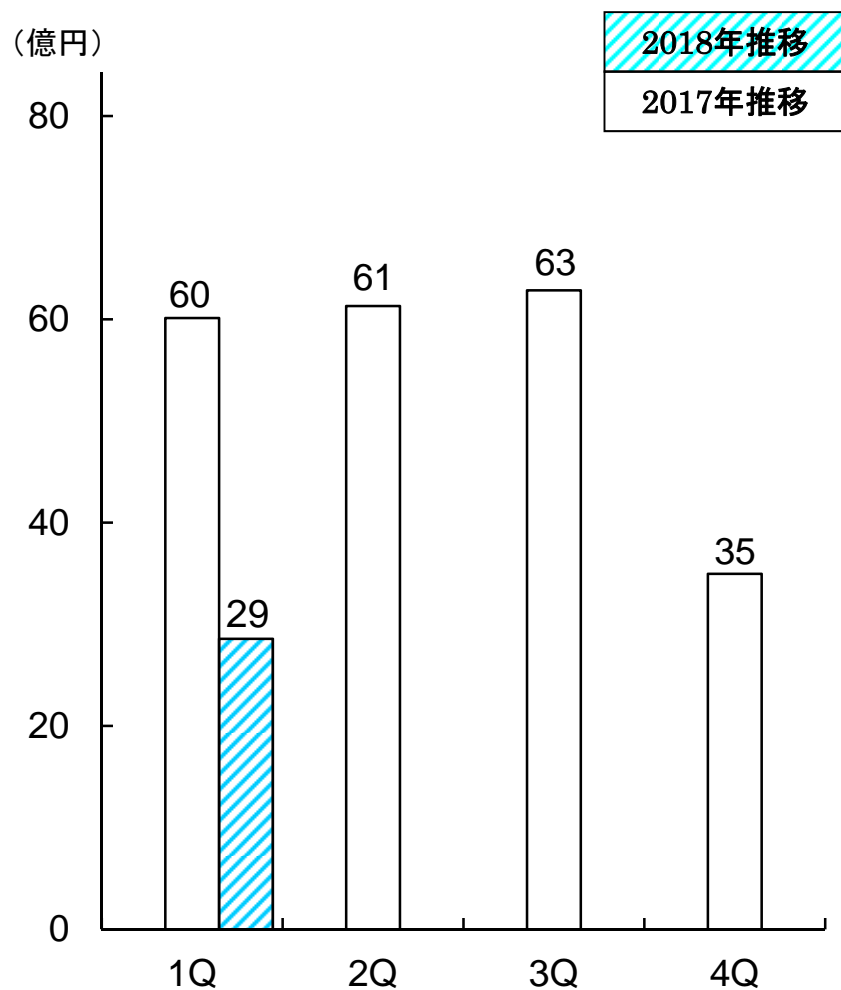
■化学品セグメント



(ご参考)セグメント別営業利益推移

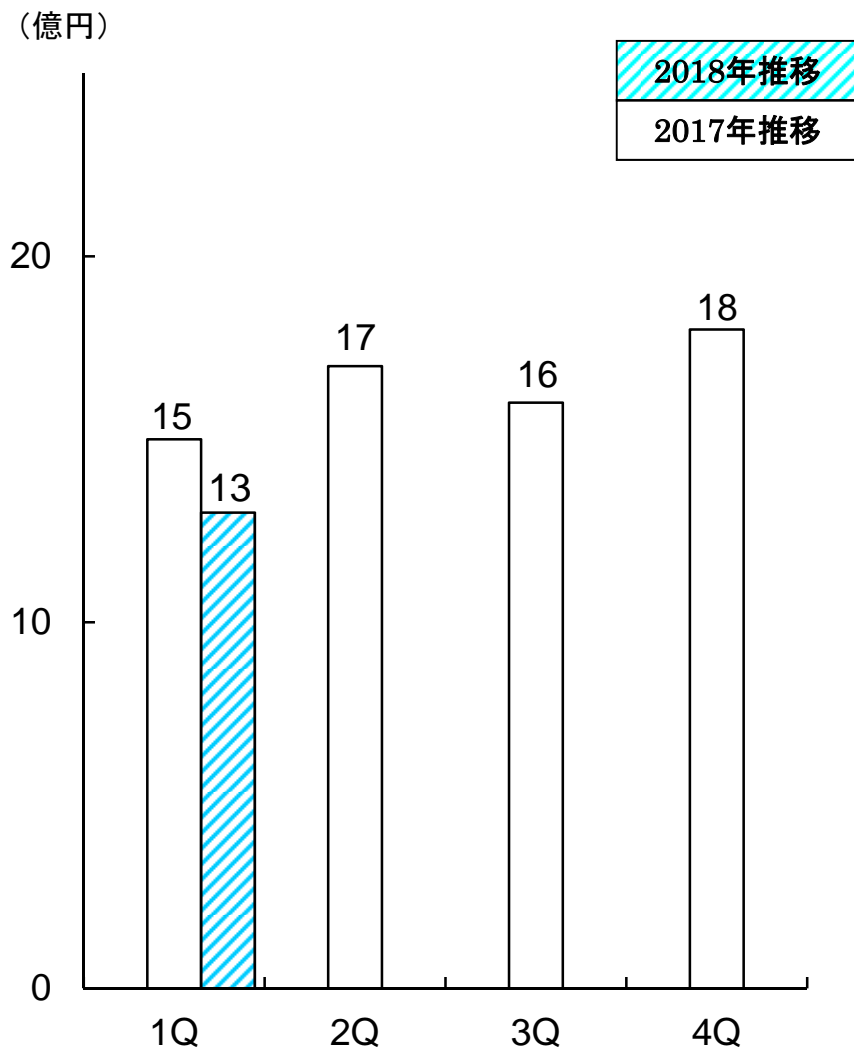
■エレクトロニクスセグメント

■無機セグメント

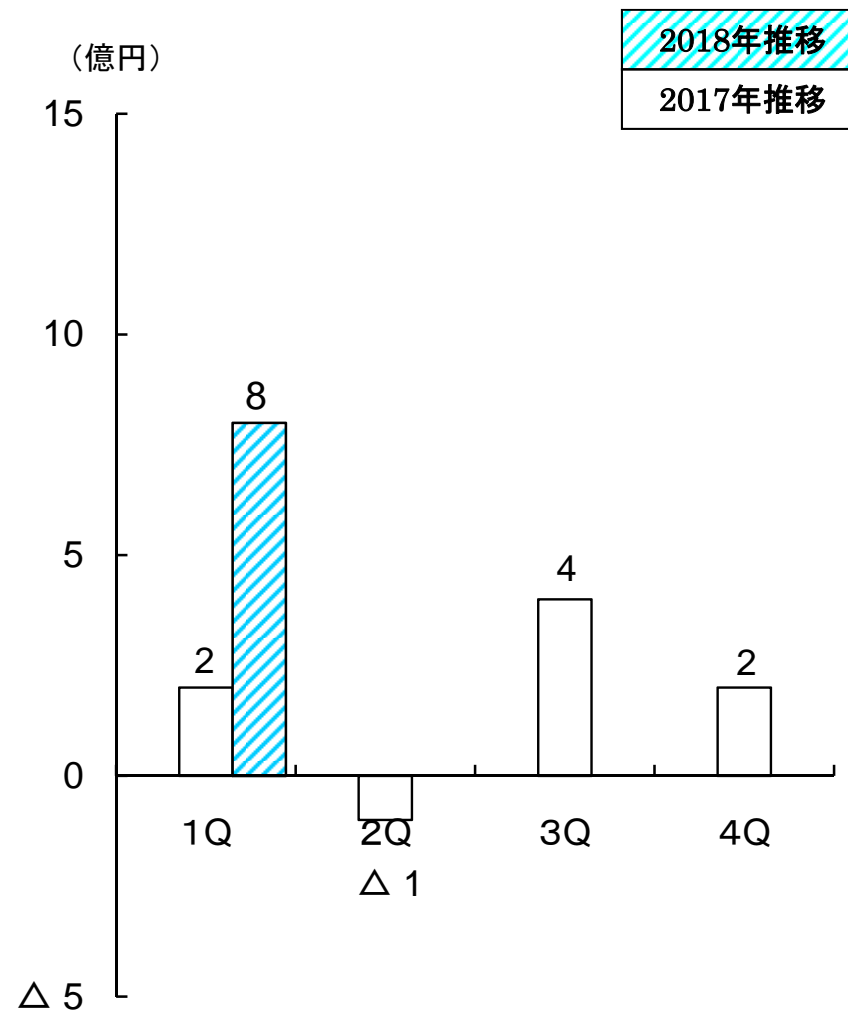


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■アルミニウムセグメント



■その他セグメント



【全社施策】

●海外募集による自己株式処分を実施

本年3月6日開催の取締役会において、海外募集による自己株式600万株の処分を決議し、同日、処分価格を4,544円と決定、同23日に受渡を完了した。

本海外募集による手取概算額合計約260億円の用途については以下の通り。

- (1)黒鉛電極事業における平成29年10月のSGL GE Holding GmbH買収に伴う借入金の返済および統合によるシナジー効果発現のための各種投資にかかる資金として本年12月末までに約160億円
- (2)電子材料用高純度ガス事業における国内外での生産能力増強にかかる設備投資資金として2019年12月末までに約50億円
- (3)アルミ缶事業におけるベトナム・タイ各拠点の生産能力増強にかかる設備投資資金として本年12月末までに約20億円
- (4)リチウムイオン電池材料事業の基盤強化およびパワー半導体SiCエピウェハーの生産能力増強にかかる設備投資資金として2019年12月末までに約30億円

今回の資金調達により、個性派事業の確立・強化、並びに事業ポートフォリオ改善と海外売上高比率の拡大を図るべく、個々の事業戦略を推進するとともに、財務体質のさらなる強化を図っていく。

【化学品セグメント】

●高純度臭化水素(HBr)の生産能力を増強

高純度臭化水素(HBr)の生産能力を年産600トンから1.5倍となる同900トンに引き上げ、本年3月より生産を開始した。

HBrは、DRAMやNAND型フラッシュメモリ等の半導体製造工程においてポリシリコンの微細加工(エッチング)に使用される電子材料ガスで、IoTやビッグデータ、自動運転等の加速に伴う半導体市場の拡大により、需要が増加している。

世界の電子部品・材料業界の需要拡大に迅速に対応し、今後とも本事業の強化・拡大を図っていく。

セグメント別トピックス

【化学品セグメント】

- 電子材料用高純度ガス『上海昭和化学品有限公司武漢分公司』を設立

本年3月、中国における電子材料用高純度ガス事業強化のため、「上海昭和化学品有限公司」(上海市)の分公司である「上海昭和化学品有限公司武漢分公司」を武漢市に設立した。

世界的な電子機器需要の拡大と中国政府による産業育成策により、中国では半導体・ディスプレイ市場が急成長している。従来、当社は上海より電子材料用高純度ガスを中国国内のユーザーに販売していたが、華中地区で大規模な工場建設が相次いでいることから武漢市に倉庫を保有する営業拠点を設立した。

顧客業界の拡大を受けた中国各地区における本事業の拡大に向け、引き続き販売・物流拠点の整備を進めていく。

【エレクトロニクスセグメント】

- リチウムイオン電池(LIB)用導電助剤VGCF[®]が『低CO₂川崎ブランド'17』大賞を受賞

本年2月、川崎事業所で製造するLIB用導電助剤「VGCF[®]」において、川崎市の「低CO₂川崎ブランド'17」製品・技術部門の大賞を受賞した。

「低CO₂川崎ブランド」とは、原材料調達から廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体を通じ、従来製品等と比べCO₂がより削減された川崎発の製品・技術等を認定するもの。

LIBの正極・負極用添加剤である「VGCF[®]」は、細長い形状により電極物質間に良好な導電パスを形成することで、寿命特性と充放電当たりの電流量(レート特性)を向上させる特長を有す。電池の交換頻度を低減でき、「VGCF[®]」を使用しない電池に比べライフサイクル全体でのCO₂排出量を約45%削減する効果がある。

これからも環境への負荷を低減する製品の開発に努め、事業を通じて社会に貢献していく。

セグメント別トピックス

【アルミニウムセグメント】

●アルミ合金材料の研究開発を強化

本年2月、アルミ合金の開発強化のため、アルミ鋳造・鍛造品の製造・開発拠点である喜多方事業所（福島県）内に、研究施設「アルミ製品評価センター」を開所した。

自動車部品は軽量化が必要とされ、当社は、ショウテック®など高強度・耐摩耗性・低熱膨張性といった特性を持つアルミ製品において高く評価されている。自動車のさらなる軽量化に貢献するためには高強度化を実現する合金技術の進化が必要であり、本センターにおいてより高性能な合金開発を進めていく。

それに加え、解析技術強化のために分析物性センターおよび計算科学・情報センターとも密接に連携し、有機・無機・金属の各素材との融合による新たなマルチマテリアルの提案も行い、将来の当社グループの成長に資する事業の芽を生み出していく。

【その他セグメント】

●パワー半導体SiC高品質グレード『ハイグレードエピ（HGE）』の生産能力を増強

パワー半導体用炭化ケイ素（SiC）エピタキシャルウェハーの高品質グレード「ハイグレードエピ（HGE）」において、月産能力3,000枚を本年4月から同5,000枚に拡大させ生産を開始した。また、さらなる需要の増加を受け、本年9月には同7,000枚へ拡大する予定。^{（注）}

パワー半導体SiCは、従来の電源用途に加え、車載への実装に向けた動きが具体化しており、鉄道車両のインバーターモジュールのほか、急速に伸長する電気自動車市場においても、車載充電器や急速充電スタンドでSiCパワー半導体への切り替えが進んでいる。お客様の高品質化要求にお応えし省エネルギー化の推進に貢献していく。

（注）1200V耐圧用デバイス仕様での換算。

PROJECT 2020+

